

Syllabus Id	syl-072015		
Subject Id	sub-0720030		
作成年月日	20070314		
授業科目名	哲学 Philosophy		
担当教員名	野澤正信		
対象クラス	全学科5年生		
単位数	2履修単位		
必修/選択	必修		
開講時期	通年		
授業区分	人文・社会科学・語学等		
授業形態	講義		
実施場所	機械工学科棟4F M5HR、共通棟3FE5HR、電子制御棟2FD5HR、高学年棟2FS5HR、4FC5HR		
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)			
<p>哲学とは愛知すなわち知を愛し求めるとい意味での知の探究である。本教科では現代の諸問題について判断根拠となる情報を適確に集め、論理的に議論を構築する訓練を行う。目的は理性への信頼に基づくよりよい知を探究する態度の涵養にある。哲学(愛知)は古代ギリシアに生まれ、近代西欧において科学を発生させて現代の科学技術文明の基礎となったが、科学技術の発達は多くの問題を解決する一方でさまざまな難問を生み出した。この授業は、それら意見が分かれる現代の諸問題について、理性的に対処し、よりよい判断を追求する姿勢と方法の修得を目的とする。あわせて、多面的な考察力を身につけることにより、科学技術を平和で安全に利用するものの見方の涵養をめざす。また、異質な知を対比させることから新たな知見を生む創造性を養う訓練でもある。</p>			
準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)			
歴史、特に近代以降の知識			
学習・教育目標	Weight	目標	
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
A 漠然とした問題を自ら明確に定義して異なる視点から多面的に考察できる力の養成			
学習・教育目標の達成度検査			
<p>1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度内8テーマについて目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)によって行う。</p> <p>2. プログラム教科目の修得と目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)及び学生自身による自己評価の合格、をもって当該する学習・教育目標の達成とする。</p> <p>3. 目標達成度試験(小論あるいはプレゼンテーション)の実施要領は別に定める。</p>			
授業目標			
<p>1. プログラム目標に合致した学科目標: 現代社会の諸問題について多面的に考察し、判断根拠となる情報を適確に集め、強い根拠に基づく説得力のある議論を構築できること</p> <p>2. 学科目標に合致した授業目標 (1) 与えられた漠然とした問題を自ら考えて解決可能な形に定義しなおす能力をもつこと。 (2) 一つの問題を異なる視点から評価し判断する多面的に考察できること。 (3) 適確な調査によって問題解決に必要な資料を集められること。 (4) 収集した情報を活用して論理的に議論やレポートが構成できること。</p>			
授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できます。)			
回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標・スケジュール・評価方法・基準等の説明	
第2回		ディベートとは何か(ソクラテス・デカルト・ヴィーゴの方法の説明)	
第3回		問題解決型学習、調査・ディベート・レポートの方法の解説、及び前半の分担	
第4回		1. プルサーマル問題概要説明(エネルギーと環境の問題)	
第5回		「プルサーマルの是非」ディベート	
第6回		前週ディベートの総括と次回の分担決定	
第7回		2. 資源問題概要説明(エネルギーと資源の問題)	
第8回		「バイオエタノールの是非」ディベート	
第9回		前週ディベートの総括と次回の分担決定	
第10回		3. 消費税問題概要説明(市民社会と税制の問題)	
第11回		「消費税率アップの是非」ディベート	
第12回		前週ディベートの総括と次回の分担決定	
第13回		4. GM食品問題概要説明(食品の安全の問題)	
第14回		「GM食品の是非」ディベート	
第15回		前週ディベート及び前期の総括	
第16回	後期オリエンテーション	後期ディベートテーマ解説と分担調査	
第17回		後期ディベート分担決定とディベート方法の再確認	

第18回		5 死刑問題概要説明(民主制と司法の問題)	
第19回		「死刑の是非」ディベート	
第20回		前週ディベートの総括と次回の分担決定	
第21回		6 裁判員制度概要説明(司法への市民参加の問題)	
第22回		「裁判への市民参加の是非」ディベート	
第23回		前週ディベートの総括と次回の分担決定	
第24回		7 学力問題概要説明(学力・教育問題)	
第25回		「学力批判の是非」ディベート	
第26回		前週ディベートの総括と次回の分担決定	
第27回		8 投資問題概要説明(投資と金融教育の諸問題)	
第28回		「投資の是非」ディベート	
第29回		前週ディベート及び後期の総括	
第30回		問題解決型学習修了後の展望、授業アンケート	
課題			
<p>レポート：ディベートで扱う問題についての賛否両論、および概要説明での報告内容のまとめ 提出期限：賛否両論はディベートの2週間後、ディベート議事録は1週間後 提出場所：授業終了後の教室、あるいは教員室(管理棟3F)。議事録はBlackboard掲示板に書き込む。 オフィスアワー：教員室(管理棟3F)において金曜午後2時から5時まででは比較的对応できる</p>			
評価方法と基準			
評価方法：			
<p>(1)与えられた漠然とした問題を自ら考えて解決可能な形に定義しなおすことができるかどうかを (2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で (3)別にネットで公表する評価基準によって判定し (4)成績に反映させる。</p> <p>(1)一つの問題を異なる視点から評価し判断する多面的に考察できるかどうかを (2)賛否両論のレポートの作成で (3)別にネットで公表する評価基準によって判定し (4)成績に反映させる。</p> <p>(1)適確な調査によって問題解決に必要な資料を集められるかどうかを (2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で (3)別にネットで公表する評価基準によって判定し (4)成績に反映させる。</p> <p>(1)収集した情報を活用して論理的に議論を構成し説得力ある説明ができるかどうかを (2)教室での発表・報告もしくはレポートの作成で (3)別にネットで公表する評価基準によって判定し (4)成績に反映させる。</p>			
評価基準：			
調査結果の発表とディベートの評価 40%、レポート 40%、授業態度(ノート) 10%、学生自身による自己評価 10%			
教科書等	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
先修科目	歴史		
関連サイトのURL	http://user.numazu-ct.ac.jp/~nozawa/nozawahp.htm (沼津高専・教養科・哲学)		
授業アンケートへの対応	課題の量が多すぎるとの指摘があったのでレポート提出数を減らした。 また、話がわかりにくいとの指摘があったので、わかりやすい説明につとめる。		
備考	<p>1.提出された課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。</p> <p>2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。メールアドレス：nozawa@numazu-ct.ac.jp</p>		